

米国財務会計基準審議会 と企業会計基準委員会 の代表者による対談

1. 米国財務会計基準審議会と企業会計基準委員会の代表者 による対談



(敬略称)

FASB 議長 ラス・ゴールデン

FASB 理事 トム・リンズマイヤー

FASB テクニカル・ディレクター スー・コスパー

ASBJ 委員長 にしかわ 西川 いくお 郁生

ASBJ 副委員長 こがさかあつし 小賀坂 敦

ASBJ ディレクター (総括担当) かみやたかお 紙谷 孝雄

(司会) FASB 国際研究員 / ASBJ ディレクター (国際担当) かわにしやすのぶ 川西 安喜

2. 米国財務会計基準審議会 (FASB) との第 15 回定期協議 の概要

ASBJ 専門研究員 みやばやしあきひろ 宮林 明弘

米国財務会計基準審議会と企業会計基準委員会の代表者による対談

はじめに

川 西 米国財務会計基準審議会 (FASB) の代表者が、企業会計基準委員会 (ASBJ) の代表者との定期会合のために東京にいらっしゃっています。この会合は、FASB と ASBJ が年に 2 回、定期的に行っているもので、今回で第 15 回目となりました。これを機会に最近の基準開発及び将来の計画について意見交換をするため、FASB と ASBJ の代表者による対談の場を設けることになりました。

私は、FASB の国際研究員で ASBJ の国際担当ディレクターも兼ねている川西と申します。本日の司会を務めさせていただきますので、宜しくお願い致します。

FASB からは、ラス・ゴールデン議長、トム・リンズマイヤー理事、スー・コスパー・テクニカル・ディレクター、ASBJ からは西川委員長、小賀坂副委員長、紙谷総括担当ディレクターにご参加いただいております。本日の対談へのご出席のためにお集まりいただき、皆様に歓迎と感謝の意を述べたいと思います。

新議長体制下における FASB の優先事項について

川 西 さて、それでは早速対談を開始した

と思います。本日、まず始めに議論したい点は、FASB におけるゴールデン議長の新体制についてです。ゴールデン氏がこの 7 月 1 日に FASB の議長に就任されています。ゴールデン議長、新体制下における FASB の優先事項についてご説明いただけますでしょうか。

ゴールデン 私は、まず、我々の業務の効率性と有効性を高める必要があると考えています。それは、アジェンダの決定プロセスを評価し、FASB による会計基準のコード化体系を改善し、プロジェクトの品質を高める一方で、プロジェクトのライフサイクルを短縮化することができるかどうかを検討することを意味します。

第 2 に、我々は、非公開企業及び公開企業の



FASB 議長 ラス・ゴールデン氏

両方により提供される情報の目的適合性を維持し、改善する一方、会計基準の複雑性とコストを低減するための取組みを拡大すべきです。我々と非公開会社協議会（PCC）との協働により、この目標の達成が促進されるだろうと考えています。

第3に、FASBのプロジェクト及び活動に対する広範な認知及び理解を図り、さらにこれらをも高めるための取組みの中で、我々の会計基準についての重要な情報を伝達する方法を改善する必要があると考えています。

第4に、米国財務会計財団（FAF）及び政府会計基準審議会（GASB）との協力を推進し、すべての関係者のニーズにより良く応える1つにまとまった機関にすることができると考えています。

最後に、会計基準設定主体としての将来のビジョンを述べたいと思います。

FASBと国際会計基準審議会（IASB）は、2002年にノーウォーク合意に調印して以来、米国会計基準とIFRSをより共通化させるため、二者間の一連の合意の下、共同作業を進めてきました。

私は、この11年間のプロセスを主要な成果とみなしています。より比較可能で、共通化された国際的な会計基準を開発し、維持することは、今後も決定的に重要な目標であり続けるでしょう。しかし、その目標を達成するのに用いる方法は変わることになるでしょう。

二者間の共通化の時代が終わりつつある中、我々は、米国の資本市場に投資する人々の差し迫った問題に確実に対処する一方で、共通化という目標を追求し続けるかどうか、また、追求し続ける場合にはどのようにしてそれを追求し続けるかについて決定しなくてはなりません。

今年の残りと来年におけるFASBの最優先事項は、主要な共通化プロジェクトを完了することです。我々は、来年の第1四半期に収益認識に関する最終基準を公表したいと考えていま

す。2つの金融商品プロジェクト、すなわち、分類及び測定と減損については、2014年中に最終基準を公表する予定です。リースの最終基準についても2014年中に完成するはずで、その後に保険に関する最終決定を行う予定です。

今後についてですが、FASB、IASB、FAF及びIFRS財団はそれぞれ、他の法域及びそれらの法域における会計基準設定主体、特に主要な資本市場における会計基準設定主体のグローバルな会計基準設定プロセスにおける役割及び重要性の高まりを認識しており、そのためにFASBとIASBの間の二者間の共通化のモデルを進化させる必要があると理解しています。

私は、会計基準を設定する資本市場の特定のニーズに対処する一方で、FASB、IASB及び他の主要な資本市場の会計基準設定主体が共存し、共通化された会計基準を公表するという明確な目標をもって協力する、長期的なグローバルな会計基準設定環境を思い描いています。

川 西 ゴールデン議長、ありがとうございます。ゴールデン議長にお話いただいた内容について、西川委員長、コメントをいただけますでしょうか。

西 川 我々ASBJも、自国の会計基準の



ASBJ 委員長 西川 郁生氏

開発を行っているので、今、ゴールデン議長がお話しされた点の重要性についてはよく分かります。民間の会計基準設定主体として一番大切なのは、議論の透明性とデュー・プロセスであると思っていますが、ゴールデン議長からFASBの優先事項をお伺いすると、我々と同様に、市場関係者との対話を重視されているように思いました。

川 西 西川委員長、ありがとうございます。

国際的な会計基準の改善

川 西 それでは、次に、国際的な会計基準をどのように改善することができるかについて意見交換をしたいと思います。まず、ゴールデン議長とリンズマイヤー理事にお伺いさせていただきたいと思いますが、米国の資本市場のための財務報告の改善と国際的な財務報告の改善及び共通化との関係について、お考えをお聞かせください。

ゴールデン このミッションを実行するためには3つの経路があると考えています。1つ目の経路は、米国会計基準の開発を通じてです。FASBは、米国会計基準の改善を行う際に、出発点として、投資家及び他の資本市場への参加者の最善の利益となるようなグローバルな整合性を促進することを追求しながら、IFRSを注意深く評価し、検討すべきです。FASBが米国会計基準に対して行うどの改善も、国際的な基準の姿及び将来の方向性に影響を与える可能性があります。

2つ目の経路は、IFRSの開発に参加することを通じてです。FASBは、FASBのデュー・プロセス、利害関係者へのアウトリーチ、分析及び審議を通じて構築された見解を共有することにより、IFRSの開発に貢献すべきです。FASBの目的は、米国会計基準とIFRSの改善

及び共通化を促進させることになるでしょう。

3つ目の経路は、他国の会計基準設定主体との関係及びコミュニケーションを強化することを通じてです。お互いの情報、考え及びアイデアを幅広く双方向で伝達し合い、さらなる共通化を発展させる環境に貢献するためには、FASBは、ASBJ及びその他の国の会計基準設定主体との既存の協調関係を維持し、強化すべきです。

リンズマイヤー ゴールデン議長が申し上げた最後の点に追加したいと思います。このような種類の協力と協働は、グローバルな共通化を促進すると同時に、高品質な会計基準開発のプロセスに貢献します。FASB、そしてASBJのニーズ、つまり、それぞれの資本市場の投資家の最善の利益をもたらすことと、それぞれの国のビジネス文化の重要性を認識することは、完全に共通化がなされた会計基準を作り出すという目標よりも重要かもしれません。しかしながら、このような道をたどることにより、FASBとASBJの両者が、IASB及び他の会計基準設定主体とともに、共通化された会計基準又は考え得る差異が最少である会計基準に最終的に合意し、採用するという目標に向かって協力する



FASB 理事 トム・リンズマイヤー氏

ことが可能となります。

ASBJに加えて、FASBは、米国の証券市場に上場している米国外の企業を多く有する国の会計基準設定主体との関係を強化することを模索する予定です。そのような会計基準設定主体としては、ASBJのほか、カナダ、中国、米国の証券市場に上場している米国外の企業を非常に多く有する欧州の主要国の会計基準設定主体があります。

川 西 ゴールデン議長、リンズマイヤー理事、ありがとうございます。次に、西川委員長と小賀坂副委員長にお伺いしたいと思います。国際的な財務報告の改善においてASBJの果たすべき役割について、お聞かせください。

西 川 お二人のご意見に同意します。米国と日本の両国は大きな資本市場を有しており、そこでの会計基準の開発の経験は、国際的な会計基準の開発に活かせるものと考えています。市場関係者との対話を行うことにより、何が利用者にとって有用であるかを見極めるとともに、コストと便益の適切なバランスをとることは、大きな資本市場を有していないと、不可能ではないにせよ、困難な作業であると思います。このような大きな資本市場での基準開発の経験を生かしてこそ、資本市場の効率性を高める会計基準が開発できると思います。

小賀坂 FASBは、民間による会計基準設定主体で最も歴史が古く、他の会計基準設定主体にとって模範的な確立されたデュー・プロセスを有していると考えています。実際、ASBJが12年前に設立されたときも、ASBJは、組織のあり方やデュー・プロセスなど、多くの点でFASBを参考にして、自身のデュー・プロセスを開発し、資本市場でのテストを繰り返しています。よって、FASBとASBJは、共有できる点が多いと考えており、両ボードが協働し

て、国際基準の改善に取り組んでいくことができると思います。

川 西 西川委員長、小賀坂副委員長、ありがとうございます。

MoU プロジェクトの状況

(1) 収益認識

川 西 次に、MoU プロジェクトの状況について意見交換をしたいと思います。まず、収益認識について意見交換をしたいと思います。私の理解では、収益認識については、会計基準確定の最終局面にあり、間もなく最終基準が公表されることと思います。コスパー・テクニカル・ディレクター、現在の議論の状況と、今後、計画されている移行リソース・グループについて教えてください。

コスパー 10月の共同会議において、FASBとIASBは収益認識に関する技術的な議論を終わらせる予定です¹。また、FASBは、11月の



FASB テクニカル・ディレクター

スー・コスパー氏

1 10月の共同会議をもって、FASBとIASBによる収益認識に関する技術的な議論は終了した。

初めに収益認識に関する最終基準を作成するかどうかの議決を行う予定です²。賛成多数の場合、FASBのスタッフが書面投票用の会計基準のドラフトの作成に着手することが認められます。この書面投票用のドラフトが、最終的な承認の対象となります。IASBも、11月のボード会議において書面投票に進むかどうかの議決を行う予定です³。最終基準の公表は、2014年の第1四半期を予定しています。

7月にFASBとIASBは収益認識に関する最終基準の公表後に移行に関するリソース・グループを共同で設置する計画を公表しました。このグループは、企業が収益認識に関する会計基準を導入する上で発生し得る解釈上の論点をFASBとIASBに報告する責任を負い、実務上のばらつきを生じさせる可能性が高い、よくある取引に関する論点を募集し、分析し、議論します。また、このグループは、会計基準を適用する方法について議論する場を設けるだけではなく、ばらつきをなくすために必要な行動があれば、その行動を特定する上で有用な情報を提供します。ただし、このグループ自体が指針を公表することはありません。

移行に関するリソース・グループの会合は、最終基準の公表後に開催する予定です。このグループは期限を設けて設置する予定であり、その主な活動は2017年に会計基準が発効する前までに行われる予定です。

川 西 コスパー・ディレクター、ありがとうございます。紙谷総括担当ディレクター、収益認識プロジェクトについてコメントいただけますでしょうか。

紙 谷 10月中旬に技術的な議論が終了し、2014年の第1四半期に最終基準が公表される予定とのことで、FASBとIASBのボード・メ

ンバー及びスタッフの本プロジェクトに対するこれまでの長期間にわたる甚大な努力に心より敬意を表します。

また、収益認識のような重要な基準において、基準が共通化された後の一貫した適用の実現は非常に大切なことであると考えております。そのような観点から、導入時にFASBとIASBが共同でこのような移行に関するリソース・グループを設置することは、大変有意義なことであると思っております。

川 西 紙谷総括担当ディレクター、ありがとうございます。

(2) リース

川 西 次に意見交換をしたいプロジェクトは、リースです。まず、小賀坂副委員長から、リースの改訂公開草案についてのASBJのコメント・レターの内容をご説明いただけますでしょうか。

小賀坂 ASBJは、現行基準を見直し、リースに関する財務情報を改善するというリース・



ASBJ 副委員長 小賀坂 敦氏

2 11月6日のボード会議において、FASBは収益認識に関する最終基準を作成することで合意している。

3 11月のボード会議においてIASBは収益認識に関する最終基準を作成することで合意している。

プロジェクトの目的を引き続き支持しています。しかしながら、改訂公開草案の提案内容のまま最終基準化することについては、次の理由から支持していません。1 番目は、借手の会計処理で、すべてのリースに対して使用权モデルを適用し、関連する資産及び負債を認識することについては、コスト便益の観点から懸念を有しています。2 番目は、貸手の会計処理で、貸手のリースの分類においては、貸手の残存資産のリスク便益への関与度が考慮されるべきであると考えています。3 番目は、リース構成部分とサービス構成部分の双方を含む契約について、一部又は全部の観察可能な価格が入手できない場合に、借手がそのような契約のすべてを一体としてリースとして取り扱うことは適切ではないと考えています。

川 西 小賀坂副委員長、ありがとうございます。次に、ASBJ のコメント・レターについてのコメントとリース・プロジェクトの今後の予定について、ゴールデン議長とリンズマイヤー理事からご説明いただけますでしょうか。

リンズマイヤー ASBJ からのコメントについては、ASBJ との定期協議において丹念に検証しました。同様の意見は、他の市場関係者からも寄せられています。これらの意見は、リースに関する最終基準を開発するための IASB との共同の再審議において検討する予定です。

ゴールデン リンズマイヤー理事が述べたとおり、FASB と IASB は、この先の進め方を決定するに当たり、寄せられたすべてのフィードバックを検討する予定です。そうすることは、FASB のデュー・プロセスの重要なステップであり、最善の会計基準を開発できるようにする上で極めて重要です。

川 西 ゴールデン議長、リンズマイヤー理事、ありがとうございます。

IFRS に関する日本における主要な論点

川 西 次に、IFRS に関する日本における主要な論点について意見交換を行いたいと思います。西川委員長から、何が主要な論点となっているかをご説明いただけますでしょうか。

西 川 2011 年に IASB がアジェンダ・コンサルテーションを行った際、ASBJ ではそれに合わせて、IFRS と日本基準の比較を行い、IFRS に関する主要な論点の抽出を行いました。そのときの主要な論点には、1. 当期純利益とその他の包括利益 (OCI)、2. 公正価値測定範囲、3. のれんの非償却、4. 開発費の資産計上、5. 開示、があります。

川 西 西川委員長、ありがとうございます。

(1) 当期純利益と OCI

川 西 一つ一つの論点について意見交換していきたいと思います。引き続き、西川委員長、当期純利益と OCI に関する論点についてご説明をお願いします。

西 川 ご案内のとおり、IASB の概念フレームワークでは、当期純利益が財務諸表の構成要素とされず、定義がなされていません。また、IFRS では、リサイクリングされる OCI 項目がある一方、リサイクリングされない OCI 項目もあります。IASB は、現在、概念フレームワークの見直し作業を行っています。ASBJ は、当期純利益を定義することが必要であり、また、すべての OCI 項目はリサイクリングされるべきと考えています。

川 西 西川委員長、ありがとうございます。ゴールデン議長、コメントいただけますでしょうか。

ゴールデン 米国会計基準は、現在、すべての項目を純損益にリサイクリングしており、米

国の市場関係者は、リサイクルリングを支持しています。しかし、米国の市場関係者は、当期純損益に含まれる項目と OCI に含まれる項目を区別する概念的な基礎がないとも述べています。米国の市場関係者は、この論点について、概念フレームワーク・プロジェクト又は財務諸表の表示に関するプロジェクトにおいて扱う必要があると述べています。

川 西 ゴールデン議長、ありがとうございます。

(2) 公正価値測定範囲

川 西 西川委員長、公正価値測定範囲の論点についてご説明をお願いします。

西 川 これもご案内のとおり、IASB の概念フレームワークでは、どの資産又は負債をどのように測定すべきかが定められておらず、IASB は、現在、概念フレームワークの見直し作業を行っています。ASBJ では、当期純利益の定義に関連して、公正価値測定範囲を定めるべきと考えており、また、公正価値の変動をもって財務業績とする項目とそうでない項目に分けて会計処理を分けるべきと考えています。具体的には、IFRS の中で、固定資産の再評価モデル、投資不動産の公正価値評価の一律的な選択、非上場株式の公正価値測定に懸念を有しています。

川 西 リンズマイヤー理事、コメントいただけますでしょうか。

リンズマイヤー FASB による会計基準のコード化体系の Topic 820 は、項目をいつ公正価値により測定するのではなく、公正価値により測定する項目をどのように測定するのについて指針を提供しています。項目をいつ公正価値により測定するののかという主要な章が、FASB の概念フレームワークから抜けています。個別基準に関しては、米国会計基準では、

投資不動産を公正価値により測定するオプションを認めていません。さらに、非上場株式について、その株式又はその株式の発行者が発行する類似の証券について観察可能な価格の変動がある場合においてのみ、公正価値で再測定することを FASB は提案しています。米国の非公開会社の関係者は、特定の識別可能な無形資産を公正価値により測定することの困難さについて懸念を有しており、PCC は、認識された無形資産の公正価値測定について、契約上の又は分離可能なものに限定することを提案しています。この PCC の提案が確定した場合、FASB はこの選択肢を公開企業にまで拡張するかどうかを検討する予定です。

川 西 リンズマイヤー理事、ありがとうございます。

(3) のれんの非償却

川 西 続いて、西川委員長、のれんの非償却の論点についてご説明をお願いします。

西 川 米国会計基準でも IFRS でも、のれんの償却は禁じられています。これに対して、日本基準では、企業は、20 年以内に規則的に



ASBJ ディレクター（総括担当） 紙谷 孝雄氏

のれんを償却することが要求されており、それに加えて、のれんの減損を評価することを要求されます。のれんの償却について ASBJ が掲げる論拠は、大きく 2 点あります。1 点目としては、企業結合により増加する収益に見合ったコストを適切に認識することと、2 点目としては、自己創設のれんの認識の禁止です。また、日本の作成者の方々の意見は分かれているように見えますが、競争ということを横において、理屈の面でいえば、多くの方がのれんを償却すべきと考えているように思います。

川 西 ゴールデン議長、コメントいただけますでしょうか。

ゴールデン 米国の非公開企業の関係者は、特に財務諸表の利用者がのれんを無視していることを踏まえ、減損目的でのれんを公正価値により測定する困難さに関する問題点を指摘しています。PCC は、非公開会社がのれんを 10 年以下で償却し、1 ステップのプロセスを用いてのれんの減損を測定することを容認する指針を最終化させました。FASB は、この指針を承認するかどうかを 11 月に決定する予定です。FASB は、将来、この変更を公開会社にまで拡張するかどうかを決定する予定ですが、その決定のタイミングは、IASB による IFRS 第 3 号「企業結合」の適用後レビューの時期により影響を受けるでしょう。

川 西 ゴールデン議長、ありがとうございます。

(4) 開発費の資産計上

川 西 西川委員長、開発費の資産計上の論点についてご説明をお願いしますでしょうか。

西 川 主として、提供される情報の目的適合性やコストベネフィットの観点から、開発費の資産計上について疑問を呈する日本の市場関係者が多く、IFRS の当該要求事項の再検討を

求めています。これらの市場関係者の多くは、米国会計基準での取扱いである費用処理のほうが適切と考えています。ASBJ が IFRS を採用している世界各国の企業の年次報告書を利用して行った調査では、開発局面の自己創設無形資産の認識について、幅広い実務があるとの結果が得られました。

川 西 リンズマイヤー理事、この点についてコメントいただけますでしょうか。

リンズマイヤー 米国会計基準では、特定のコンピューター・ソフトウェアに関するものを除き、開発費の資産計上を認めていません。しかしながら、ほとんどのソフトウェア会社は、開発費は資産化のための要件を満たさないと結論付けています。米国の市場関係者は、この指針及びその適用方法について懸念を示していません。

川 西 リンズマイヤー理事、ありがとうございます。

(5) 開 示

川 西 それでは、最後の論点に移りたいと思います。西川委員長、開示の論点についてご



FASB 国際研究員／ASBJ ディレクター (国際担当)
川西 安喜氏



説明をお願いしますでしょうか。

西川 IFRSの開示については、質の高い開示となっているとの一般的な評価があると考えています。一方で、近年、企業の年次報告書の開示は、次第に膨大になり複雑になってきており、利用者が本当に重要な項目に着目するのが難しくなっているとの懸念も、日本の市場関係者から聞かれます。今後、開示に関するフレームワークの開発が必要と考えており、それをベースに、一貫性のとれた効果的な開示に向けて、開示に関する要求事項を開発すべきであると考えています。

川西 コスパー・テクニカル・ディレクター、開示についてコメントいただけますでしょうか。

コスパー 米国の市場関係者は、既存の規定は大量の開示を要求しているものの、目的適合性のある情報を提供していないと指摘しています。このため、FASBは、2つの点に対処するために開示フレームワーク・プロジェクトに取り組むこととなりました。1点目は、年次及び期中の開示規定を定めるためのFASBの意思決定フレームワークです。これは、概念フレームワークの1つの章として提案される予定です。2点目は、どの開示が目的適合的であるかについて報告企業に指針を与えるための企業の意味決定プロセスです。その目的は、重要性又は目的適合性に基づいて企業が開示を限定することを容認することにあります。

川西 コスパー・テクニカル・ディレクター、ありがとうございます。

終わりに

川西 そろそろ時間になりましたので、最後に一言ずつお願いします。

ゴールドデン まず、これらの重要な論点につ

いてお話しさせていただく機会を設けていただき、ありがとうございます。FASBは、ASBJとの強固な協働関係を高く評価しており、定期協議においてはいつも、価値のある洞察をいただいています。

前に述べたように、私は、共通のセットのグローバルな会計基準に向けて作業することが、日米両国を含む世界の主要な資本市場の利益になると考えています。IASBの会計基準設定活動に十分に参加することは、このプロセスを促進する上でFASBとASBJが協働できる重要な方法の1つです。

一方で、FASBとASBJがそれぞれの自国基準の品質を維持し、向上させることも極めて重要です。それぞれの国が自国のビジネス文化の完全性を維持するために、会計基準間の差異を維持しなければならない状況が存在する可能性は高いと思います。

したがって、各国の会計基準設定主体にとって最善の進むべき道は、最終的に、可能な限り差異をなくした会計基準について合意し、これを採用することを目標に協働することです。協働することにより、私はこの目標を達成する自信があります。

リンズマイヤー ASBJとの継続的なコミュニケーションにより、高品質の比較可能な会計基準という共通の目標に向けて作業するに当たり、日米両国が直面する論点についての理解が深まっています。このような議論を通じ、私は共通の目標の達成に近付くことができると考えています。

コスパー 私も、直面する課題や今後想定される懸案事項について意見交換を継続することが重要であると思います。FASBは、グローバルな会計基準の設定に影響する論点についての洞察を共有する機会を非常にありがたく考えています。

西川 皆さんのご意見に全く同意します。

定期協議を続けていくのみならず、重要なプロジェクトに関するビデオ会議や、ASAF 会議への対応の打合せ等、FASB と ASBJ のコミュニケーションの幅を広げられればよいと思っています。

小賀坂 FASB と ASBJ が協働して作業を行うことは、両国にとっても、また、国際的な会計基準の発展にとっても、非常に有益で重要なことと思います。今後、さらに、両ボードの関係が深まることを期待します。

紙 谷 ボード・レベルのコミュニケーションと合わせて、今後はスタッフ・レベルでの意見交換も深めていきたいと考えております。

川 西 皆様、本日は貴重なご意見をありがとうございました。FASB と ASBJ との強固な関係が国際的な会計基準の改善に引き続き貢献することは間違いないものと固く信じております。